

《立地自治体による立入調査が実施されました》

1月30日、「女川原子力発電所周辺の安全確保に関する協定書(安全協定)」に基づき、宮城県、女川町、石巻市による立入調査(登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町も同行)が行われました。調査では、「2号機の営業運転再開に係る確認」、「不具合事象に関する再発防止対策の実施状況」、「1号機廃炉作業に伴う使用済燃料移送関連作業状況」について、現場や書面を確認いただきました。当社としては、今回いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の発電所運営にしっかりと生かしてまいります。

立入調査における立地自治体からの講評(抜粋)

- 今回、確認した不具合事象は、ヒューマンエラーが原因の一つと承知しているが、女川原子力発電所の運営にあたっては、ヒューマンエラーを未然に防止するために、運転員や保守管理を行う方の継続的な教育・訓練に取り組み、コミュニケーションの促進と技術力の維持・向上を図るなど、安全性の確保に万全を期すこと。
- 1号機の廃炉作業に伴う使用済燃料の移送は、長期に及ぶ作業になることから、安全確保に十分留意した上で、着実に作業を進めていただき、その進捗については関係自治体や県民に対し、積極的に情報公開すること。



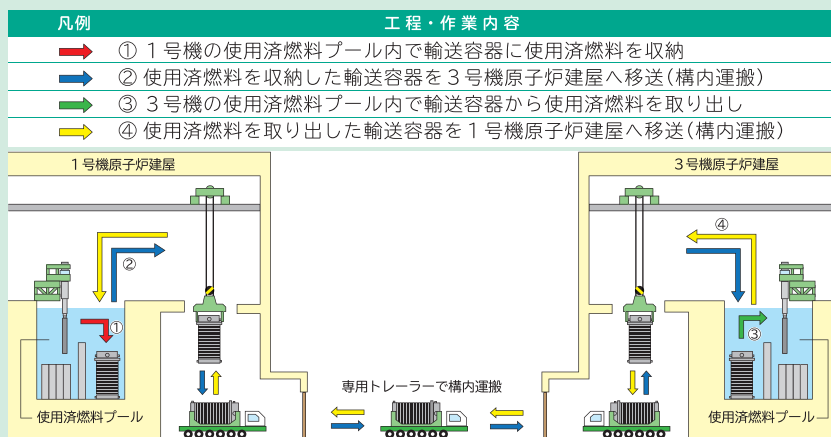
2号機中央制御室で現場確認を行う
自治体関係者



自治体を代表し講評を述べる
宮城県原子力安全対策課 長谷部課長(写真中央)

《1号機の廃止措置作業の一環として、使用済燃料の3号機への移送を開始しました》

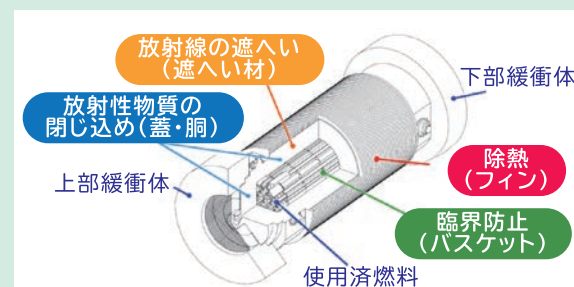
1号機は原子力規制委員会から認可された廃止措置計画に基づき、2020年7月より廃止措置作業に着手しております。全体工程(34年)を4段階に区分して実施しており、現在は第1段階の解体工事準備期間(2020年度～2027年度)として、燃料の搬出、汚染状況の調査、放射線管理区域外の設備の解体撤去などを進めております。1月14日から1号機の使用済燃料プールに貯蔵している使用済燃料821体を、3号機の使用済燃料プールに搬出する作業を開始しました。2027年度上期までの作業完了を目指し、安全確保を第一に着実に作業を進めてまいります。



使用済燃料の移送イメージ



輸送容器を専用トレーラーで運搬する様子



収納体数	使用済燃料22体
寸法	全長：約6.3m、外形：約2.6m
重量	約97t(使用済燃料22体を含む)

輸送容器の概要

1号機の使用済燃料は十分に冷却されており、使用済燃料を収納した輸送容器の表面温度は24℃程度です。また、移送にあたっては、容器表面の汚染状態や放射線量の測定を行い、基準値以下になっていることを確認した上で実施しています。

1号機の廃止措置状況は、
当社ホームページでも公開
しています。
<https://www.tohoku-epco.co.jp/electr/genshi/safety/haishi/info.html>



《2024年度事業者防災訓練を実施しました》

1月24日、原子力災害発生時における対応力の向上を目的に、2024年度事業者防災訓練を実施しました。

今回の訓練では、地震の影響により、運転中の2号機の原子炉冷却機能が喪失し、使用済燃料プールの水位が異常に低下した場合を想定した対応などを確認しました。実際に緊急時対策建屋※内に対策本部を設置し、事故収束に向けた対応指揮や関係箇所との情報連絡をはじめ、使用済燃料プールへの送水に使用する可搬型車両の設置やホース接続などの訓練を行いました。

今後もさまざまな事象を想定した訓練を繰り返し行い、原子力災害発生時における対応力の向上に努めてまいります。

※大規模な原子力災害が発生した場合の現地対策本部となる指揮所機能の強化を目的に、海拔60mの高台に設置した耐震構造の建屋



対応の指揮をとる阿部所長(写真中央)



発電所の状況を確認する所員(事務建屋内)



対策本部で事故収束に向けた対応を確認する所員(緊急時対策建屋内)



使用済燃料プールへの送水のため大型化学高所放水車を設置する作業員

《3号機に関する地質データ拡充に向けた地質調査を実施しています》

3号機の新規制基準適合性審査申請に向けた準備の一環として、1月20日から地質調査を実施しています。

3号機の原子炉建屋周辺においてボーリング調査を実施し、断層の性状等を詳細に確認することにより、原子炉建屋周辺の地質・地質構造に関するデータの拡充を図ってまいります。採取した試料の状況等を確認しながら調査を進めることとしており、調査期間は2年程度を予定しております。

<詳細は当社ホームページで公開しています>

■女川原子力発電所3号機に関する地質データ拡充に向けた地質調査の実施について

https://www.tohoku-epco.co.jp/news/atom/1246095_2549.html



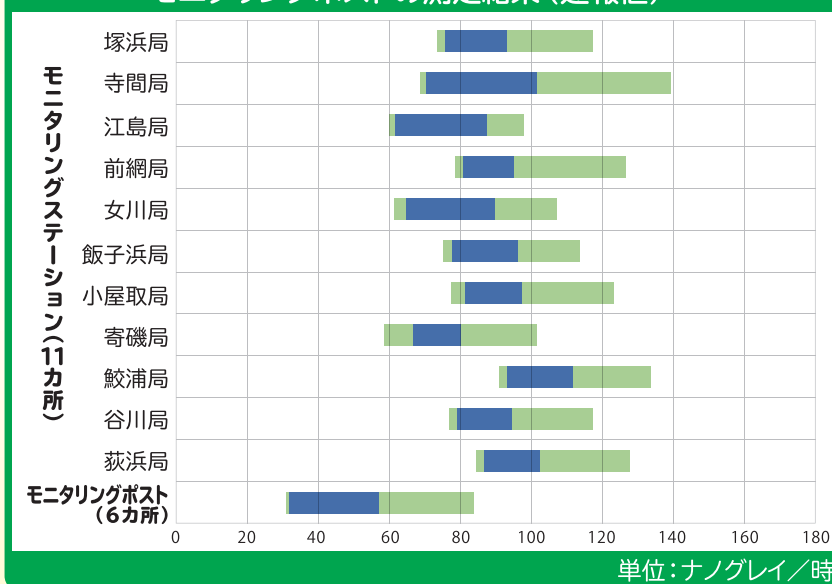
《発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングステーション※¹やモニタリングポストで測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。2025年1月の測定結果は以下のとおりで、発電所周辺の放射線量は安定しており、発電所の運転による有意な変化はなく、環境への影響はありません。

モニタリングステーションとモニタリングポストの設置地点



2025年1月のモニタリングステーションとモニタリングポストの測定結果(速報値)※²



※¹モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※²モニタリングポストの測定値は、検出器の種類が異なるため、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないことから、モニタリングステーションの測定値より20~40ナノグレイ/時程度低い測定値となっています。

グラフの見方

